

平成26年度 養徳小学校の教育

京都市立養徳小学校
校長 濱島 后江

教育の目的は、子どもたち一人一人の可能性を十分に發揮させ、豊かな人間性を育て、幸せに生きていくことのできる自立した人間を育てていくことだと考えます。

自分の「将来に夢をもち、なりたい自分になれるために」努力できる力の育成を目指し、高野中学校・養正小学校・養徳小学校の3校で連携した9年間の義務教育を進めます。

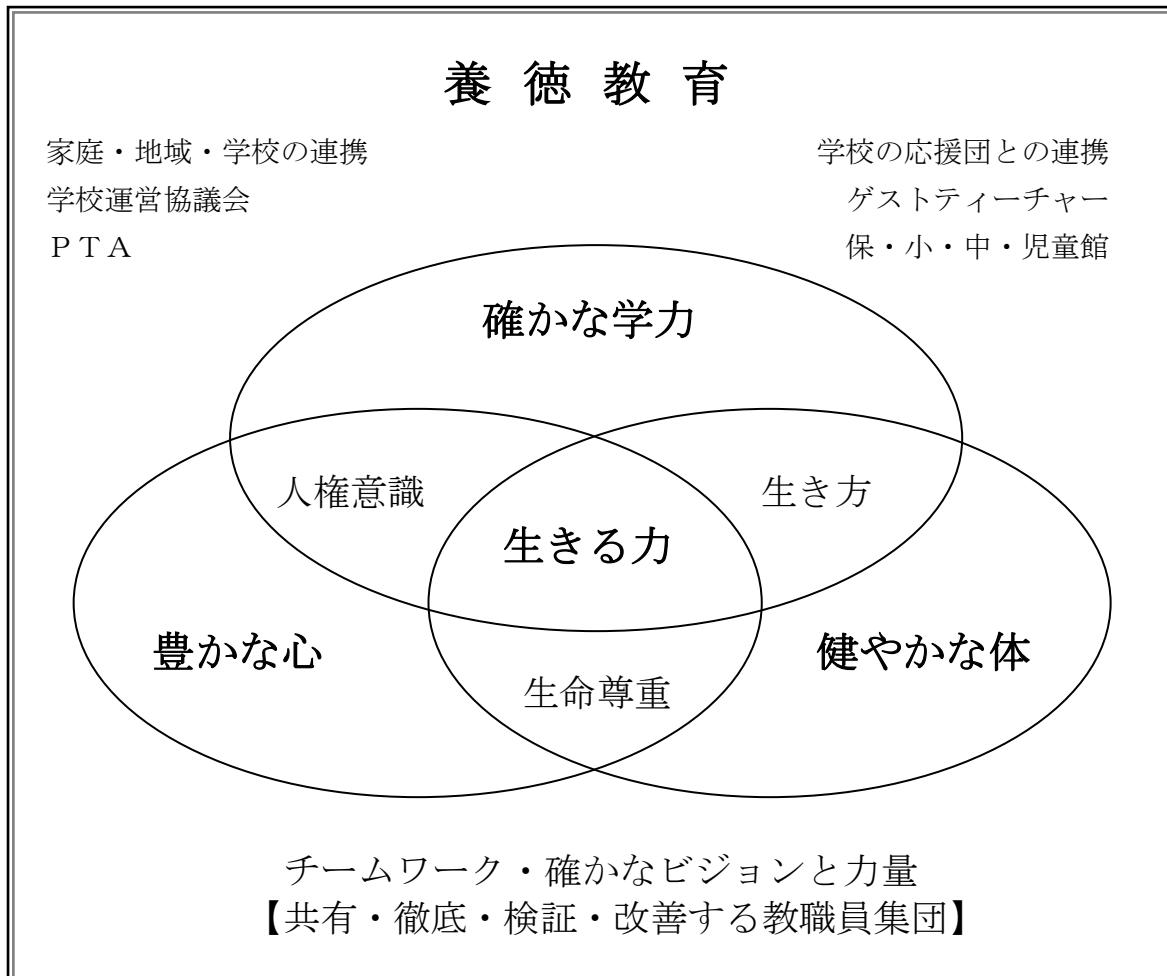
本校の教育活動全般において『子どもの命を守りきる』という体制のもと、いじめや体罰のない学校、全ての教育活動において安心安全な学校づくりを全教職員で一丸となり目指します。

教育目標

小中一貫教育目標 『小中9年間で 「生きる力」を育む』

学校教育目標 『一人一人の子どもを大切にする 養徳教育の推進』

～将来に夢をもち、なりたい自分になれるために～



1 目指す子ども像

○すすんで学習し、表現する子

- ・話をきちんと聞ける
- ・課題に向けて、主体的に学べる
- ・自分の思いや考えを表現できる

○お互いを大切にする子

- ・自分のもの、学校のもの、命あるものを大切にできる
- ・相手の気持ちを考えて行動し、仲よくできる
- ・地域のよさを知り、大切にできる

○きまりを守り、元気な子

- ・きまりやルールを守って行動できる
- ・基本的生活習慣に关心をもち、運動やスポーツを楽しめる

2 目指す教職員像

○一人一人の子どもの安全と学びのために、共に汗して働く教職員集団

○報告・連絡・相談の徹底が図れる教職員集団

○子どものキャリア発達を支援することを意識して、教育実践する教職員

○子どもの将来に責任を果たすために、指導しきる教師

○新しい発想、創意工夫した教育活動を積極的に楽しむ教職員

○自らの課題に対し自己研鑽に励み、指導力の向上・専門性の向上に努める教職員

3 学校教育目標の具現化に向けて

① 人権尊重の精神の育成と安全管理・安全教育の充実

○全ての教育活動の中で、全児童の安全と人権が護られる学校。

○命（体の命・心の命）を大切にする子どもを育てる学校

【安全管理・安全教育の徹底】・・・

- ・養徳水泳指導マニュアルを基に、安心安全で楽しい水泳指導の実施
- ・教育環境の安全確認・教科指導中における安全管理・指導の徹底と計画的実践
- ・安全教育（交通安全・生活安全・災害安全）の充実
命を守り抜くために主体的に行動する態度の育成・支援者としての意識の育成
- ・避難訓練の充実（火災・地震・不審者）と保護者や地域との連携
- ・緊急時の体制・対応に向けてのマニュアル再検討と研修・訓練の実施
- ・教職員の危機管理意識向上に向けて理論研修・実地訓練の充実

【協働活動の充実 人権教育・生徒指導を基盤に】…手本は教職員の姿

- ・感性に響き、実践力となる道徳教育の充実・学習規律の確立と規範意識の醸成。
- ・児童の実態に対し、『なぜかな？』と、児童理解をすすめながら、その背景・要因を探り、児童に寄り添いながら、解決のための方策を工夫していく。(組織としての共通認識と連携)
その子どもが、かかえさせられている問題や課題、という受け止め方をする。
- ・L D等通級指導教室や育成学級の取組との連携・情報の共有化・指導法の工夫
- ・教室の整理・整頓、集中を妨げない掲示の工夫。
- ・不登校の未然防止と学校復帰を目指した対応・支援。
- ・積極的な家庭訪問による保護者との連携。
- ・児童を呼び捨てにしない。「…さん」で呼ぶ
- ・児童間でも、呼び捨てしない指導の徹底
- ・認めて、ほめて育てる・・・チャンスを見逃さない
- ・できた感・認められてる感・困っても助けてもらえる感・・・子どもとの信頼関係
- ・係や当番活動での役割の明確化・道具や活動内容の確認と指導により、働くことの充実感や満足感を味わえる指導
- ・いじめのない学級づくり・・・表面的な表情や言動の観察でなく、児童の言えない気持ちに気づこうとする姿勢と取組による早期発見・期対応で子どもや保護者との信頼関係につなげる。(アンケート・クラススマネジメントシートの活用)
- ・「ありがとう・ごめんなさい」を含めて、挨拶できる子の育成
- ・約束やきまり、時間を徹底して守らせる(納得して実践する力につながる指導)
- ・支援の必要な子どもや課題のある子どもの学力保障
- ・社会性・コミュニケーション力の育成(C S S 6年間のスパイラルな学び)
- ・児童会活動の工夫・充実(高学年のリーダー性育成・異年齢集団の関係づくり)
- ・清掃時間のていねいな指導・子どもとの協働
- ・常日頃からの教室や廊下の整理整頓と安全点検

② 確かな学力の定着を目指して

- 学習規律の徹底(全学級、共通認識)
- 学力向上に向けて各調査の分析(全国調査・京都市定着調査・ジョイプロ・プレジョイプロ)
- 学ぶ楽しさがわかる授業を目指す・・・板書(ねらい・学習の流れ・児童の活動)
- 伝え合い・学び合う 学習集団の育成
 - ・支援の必要な子どもへの対応と個や集団の特質に応じた指導をする。
 - ・問題解決力の育成
 - ・グループ学習・グループ交流などの場の保障
- 基礎的基本的な知識・技能の確実な習得と定着、それらを活用し豊かに表現できる

力の育成を目指す

- ・普通授業の中での計画と個別課題への取組みの充実
- ・帶時間の学習での反復と継続

○つけたい力を明確にした言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育てる。

読む 書く 話す 聞く 活動の重視 (コミュニケーション力)

思考力 司会力 発表力の育成

- ・掲示物の工夫 (校内・教室)

○実生活につながる力の育成のため、知識・技能を活用する学習を重視

○読書活動の充実 朝読書 ・ 読書 100 冊マラソン奨励 ・ 図書館活用

③ 心身ともに健康に生活する力の育成

○早寝早起き朝ごはんの奨励

○健康的な生活習慣の確立のための取組

○食育の推進

○体力向上に向けた取組の充実 (健康観察・生活点検・食生活指導)

④ 学年母体としての取組み

- ・学年主任を中心に、学年内での話し合い・連絡・相談を密にして、京都市スタンダード・週案を基に、学習指導内容・評価・計画の進捗状況を揃えておく。
- ・掲示物や児童の作品に、学年としての教材研究・教材準備など連携した取組みによる指導の足跡が、うかがえるような教育活動を行う。
- ・学年としての校内研究・生徒指導の実践
また、交換授業や習熟度別、教科担任制など授業形態の工夫により学年全体で児童の育成に当たる意識をもつ。

⑤ 地域ぐるみの教育の推進

- ・学校運営協議会を核にした教育活動の充実
- ・学校評価を活かし、成果と課題を明確にした実践
- ・保幼小中の情報交換や連携によるきめ細かな育成支援と指導力の活性